

景観ガイドラインの進め方

1. 観光まちづくりに繋がる景観ガイドラインの策定

背景となり舞台装置となる景観形成を基本としつつ、以下の要素を加える。

●観光客の期待に応える景観形成

- ・視覚的満足:フォトジェニックな景観形成
- ・知的満足:地域性とおもてなし表現としての景観形成
- ・行動的満足:回遊促進型の景観形成

●全国有数の温泉地と差別化できる景観形成

- ・深川萩で彩られる温泉地
- ・川なか歩き
- ・誘客回遊の拠点としての恩湯・礼湯空間

●周遊滞在型観光圏の核となる観光空間と体験の場の実現

- ・三ノ瀬地区陶芸家との連携
- ・宿泊動機を生む夜景景観、照明デザインの計画
- ・季節のあかりイベントの社会実験
- ・周辺観光地と連携するための新たな交通の在り方検討
- ・稼ぐ場としての広場のあり方検討
- ・海外個人旅行者が関心を持つ価値の創出

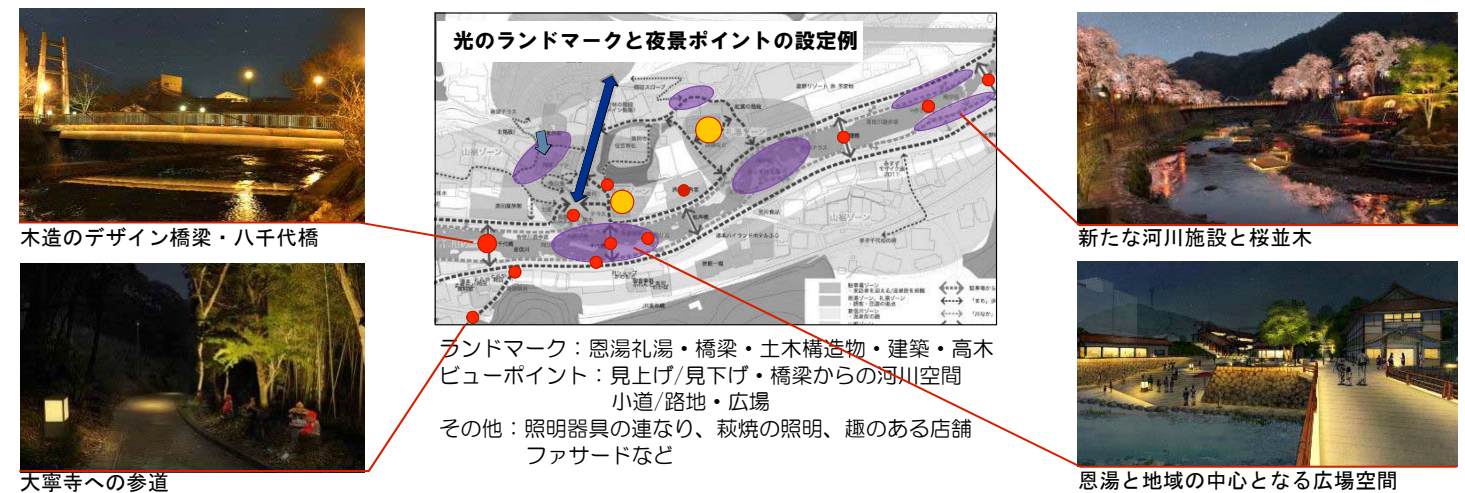


4. 夜間景観デザインの考え方

- 【夜景を変える～暗がりから情緒へ】 フォトジェニックでビューのある夜間景観
- ・温泉地の情緒があり、観光客の満足感を高め、地域の安全安心に寄与する夜間景観
- ・競争力のある「フォトジェニックな」夜間景観を創出



- 【回遊性を高める～そぞろ歩きの楽しいまちへ～】 ランドマークのライトアップや散策路のライティング
- ・ランドマークのライトアップや散策路のライティングによって、散策や湯めぐりが楽しめる環境を創出。



2. 実効性のあるガイドラインの策定による町並み修景やリノベーションの促進

●建築の種類やステイクホルダーに応じた実効性のあるガイドライン

- ・住宅、店舗、低層小規模旅館、中層大規模旅館、空き家など、温泉街を形成する多様な建築に対応したガイドラインの検討



●ガイドラインを活用する主体に応じた多様なWSや社会実験

- ・住民、観光事業者に加え「施工者」という多様な主体対象のWSによるガイドラインの作成と、景観整備の担い手の育成



3. 地域や市民との協働によるガイドラインづくりのシナリオ

●住民WS

第1回WS
まち歩きWSによる長門湯本の魅力と課題の再発見

第2回WS
長門湯本の町並み写真を用いて〇×旗あげWS

第3回WS
ガイドラインの骨子となる重要な項目を協議

第4回WS
ガイドライン及び協定(案)を提示して意見交換

第5回WS
ガイドライン・協定の合意形成協議組織の立上げ

●施工者WS

第1回WS
外部の目から見た長門湯本らしさの紹介と意見交換

第2回WS
長門湯本らしい屋根・外壁・窓等のつくり方検討

第3回WS
空き家調査によりリノベ提案対象物件の選定

第4回WS
空き家のリノベ方針の検討

第5回WS
空き家のリノベ方針のまとめ施工体制づくり



5. ランドスケープデザインの考え方

●背景となり舞台装置となるデザイン

- ・人々の背景、引き立て役となることを心がける。

●さりげなく洗練されたデザイン

- ・過度に地域性を演出しすぎず抽象化に努め、飽きがこない、洗練度を高めたデザインとする。

●他者を活かすデザイン

- ・周囲の山々・岩場のある音信川・坂道・石積みや樹木など地域の魅力を積極的に活用する。

●自然素材を導入したデザイン

- ・現状の石積み擁壁や護岸のように、時間と共に風合いが増しプラスに働く自然素材を活用する。

●空間や場の格に応じたデザイン

- ・機能一辺倒の設計ではなく、通り・空間・場などの格に応じた雰囲気づくり、素材の使い方等に配慮する。

●人のスケールや行動にふさわしいデザイン

- ・安心できる人間らしいスケール感、奥行き感を追求する。



6. 交通計画の考え方

●現況調査

- ・歩行者・自転車・自動車交通量調査
- ・来街者アンケート調査
- ・宿泊施設アンケート調査
- ・駐車場調査

●将来分析

- ・上記の各種調査結果をもとに、宿泊者数の増加(現況18万人→目標33万人)に伴う自動車交通量及び駐車場必要台数の将来推計を行う。

●交通社会実験の企画・検討

- ・音信川兩岸道路の車両進入制限に関する交通社会実験の内容や方法について検討・立案する。

●「交通まちづくり」を共に考え行動する機運の醸成

- ・「人中心の安全・快適な道路交通環境の創出」は、長門湯本温泉の「おもてなしの心」を来街者に印象づける重要な要素となる。
- ・一方、車両進入制限等の導入は、地域住民や商業者にとって日々の生活に関わる大きな問題となることから、地元ワークショップにより共に考え行動するプロセスを大切に、みんなで今回のプロジェクトを成功させるという雰囲気を醸成しながら進めていく必要がある。